

♪ 研修会参加記 ♪

研修会に参加しました

小林 加奈

7月31日、8月1日に日本赤十字社医療センターで行われた第10回日赤図書室協議会研修会・総会に参加しました。私は今年大学を卒業して図書館司書の資格は取ったのですが、恥ずかしながら病院図書室の知識は全くありませんでした。日常業務も一人で行っており大変心細かったので、今回の研修をとっても楽しみにしていました。

一日目の基礎講座の二つは、利用者への支援がテーマでした。これらは日頃から私がいつか取り組んでいきたいと考えていた内容だったので、勉強になりました。当院に図書室ができて、二年が過ぎましたが、いまだに「図書室って何をしているの？」と職員の方から質問を受けます。図書室の認知度がまだまだ低いのでしょう。来年度の新入職員の研修会には図書室利用のプログラムもいれてもらえるようお願いしよう、ゆくゆくは文献検索の勉強会も開いて…と夢が膨らみました。

情報交換会では、医学雑誌の編集の事例を報告された野口通世さん（徳島日赤）のグループに参加しました。当院でも医学雑誌編集は図書室の業務です。しかし、前任者が辞めてしまっているため、資料でしか編集業務内容が確認できません。実際に編集業務を行った野口さんのお話は大変貴重なものでした。

その後の懇親会ではテレビで見たことがある（！）飲茶店へ行き、おいしい飲茶とビールで

東京の夜を堪能しました。

二日目の公開講座のなかでは日赤医療センター院長の増田寛次郎先生のお話が印象に残っています。日赤医療センターでは7月から病院図書室を患者さんに公開されたそうです。先生の図書室公開への決断力と、現場担当者への理解力に感銘を受けました。私の希望ですが、当院でも5年後新病院建築の際には患者図書室を開設できればと思っています。しかし、現在すでにひと月に一、二度患者さんから図書室を利用したいと問い合わせがあります。「申し訳ないですが図書室は職員専用なのです」とお断りする時の患者さんの落胆された顔を見るのは本当に心苦しいものです。院内感染や予算の問題もありますが、増田先生のお話を聞き、患者さんが自分の病気のことを知りたいと思うその気持ちに応えられる図書室を作りたいと想いを新たにしました。最後に医療センターの図書室も見学させていただきました。大変立派な図書室で、ため息が出るばかりでした。配架等、参考にさせていただきます。

今回の研修会ではどの講座も勉強になり、参加させていただいてよかったと思っています。全体を通しては、パソコンを扱う内容の講座が多く、私も司書の資格に甘んじることなく、ますますのスキルアップが必要だと感じました。それにしても皆様の知識の豊富さには驚きました。教えていただきたいこともまだまだたくさんありますので、これからもよろしく申し上げます。

KOBAYASHI Kana

岐阜赤十字病院 図書室

gifu-med.lib@gifu.email.ne.jp